

むくのきだより



6月号 平成28年6月1日 港区立赤羽幼稚園長 小鹿原 賢

子どもの気付きを見付ける 大人の感性

園長 小鹿原 賢

新緑に囲まれた新宿御苑での遠足は、普段の幼稚園生活にはない豊かな木々・草花溢れる自然体験や小さな虫の発見など、楽しい遠足となりました。

苑内で子どもたちは、何かを見付けては立ち止まり、触ったり拾ったりの行動で列が大きく開いて遅れがちになります。そんな時、先生たちは、子どもの興味関心が薄れない範囲で行動を許容し、列に戻す指導をします。学級ごとに遊ぶ時間では、探検と称して自然の中を歩き、都会の真ん中で、出会う自然や大木に歓声が沸きました。

子どもたちが手に持っている袋は、みるみるうちに木切れや葉っぱ・花びら・植物の実・小石などで一杯になりました。子どもは、気付いたり見付けたりしたものには「園長先生、見て見て！」と私の手を引っ張って見せたり、小さな手に握られた小さな実や葉っぱなどをプレゼントしてくれたりしました。

子どもの生活・自然や人とのかかわりの中での気づきは、子どもの課題発見力を育て知性を作ります。その時私たち子育てをする大人は、子どもの気づきを大切にし、それを生かす活動へと広げていくことが大切です。

ゆり組は、カセットテープの透明なプラスチックケースで「カメラ」を作り、自分の目に映した光景を、園に帰ってきてから絵に表しました。作品を見ると「あっ、この子はこんな自然を頭に焼き付けてきたんだな。」とわかります。さくら組は、友達と一緒に遊ぶことを体験し、園での遊びに広がりをもたせています。このように、子どもの気づきをどのように生かしていくか、大人の感性であり幼稚園の先生の腕の見せ所です。

遠足が終わって、洗濯を家でしてもらいました。ポケットから小石や葉っぱ、ガラスのかけらのようなものがいっぱい出てきました。子どもの気づきを生かす教育には、幼稚園の先生に及ばないな、と感じました。

今週6月4日(土)には、赤羽小学校・幼稚園「開校90周年記念運動会」があります。子どもたちのかわいい、そして元気な演技に声援をお願いいたします。

新宿御苑の大きな木。新聞紙に色を付けて幹にしました。 5歳ゆり組



自分で作った「カメラ」で撮った写真をプリントアウト（描画）しました。 5歳児ゆり組



初めてのバス遠足。みんながバスに乗っています。 4歳さくら組